

2022年11月15日

宝ホールディングス株式会社 2023年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答内容

【質問① 価格改定について】

Q： 国内酒類事業の10月の価格改定後の状況について、店頭価格への反映や数量の動向はどうなっているのか。特に下期はかなり数量が減る予想だが、仮需の反動を考慮しても保守的な予想に見える。その前提はどう置いているのか伺いたい。

A： 価格改定の交渉については、9割以上の得意先との間で完了しているが、店頭価格はそれぞれの得意先の方針もあるので交渉が終了したら一律に反映される性質のものではない。下期計画については、焼酎を中心に前倒し需要や反動減を見込んでいるが、前回の予想よりは減少が穏やかだと見ており今回予想を修正した。

【質問② 海外酒類事業の足元状況について】

Q： 海外酒類事業について、コロナ禍において海外ではプレミアム帯の酒類は好調であり御社にも追い風だったと思うが、海外の大手スピリッツメーカーの7-9月決算を見ると、夏ごろから状況が変わっていることが見て取れる。一部の企業は市場の期待値を下げるような発言をしている。トマーチンやブラントンに関しても外部環境は変わっているのではないか。

A： 海外の酒類事業については、超大手の企業と違って当社はそこまで規模が大きい。また、トマーチンやブラントンはコロナ禍において好調というよりコロナ禍以前より堅調に推移してきており、引き続き堅調に推移していく見通しである。